

音楽教員に求められる音楽的技術力を育むための一 考察：演奏表現を促す言語活動を用いて

メタデータ	言語: ja 出版者: 公開日: 2018-03-30 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 佐藤, 全子, Sato, Masako メールアドレス: 所属:
URL	https://senzoku.repo.nii.ac.jp/records/758

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.



音楽教員に求められる音楽的技術力を育むための一考察

—演奏表現を促す言語活動を用いて—

A note to bring up technical abilities of music education for becoming music teacher:
Using language activity to encourage performance expression

佐藤 全子

Sato Masako

1 研究の意義

現在、教育の現場においては、何をどのように「学ばせる」のか、自ら「学ぶ」こと、そして、生きた授業づくりの実現に向けて取り組むことが求められている。現行の学習指導要領等（幼稚園教育・小・中学校）の改定のポイントとして「知識の理解の質を高め資質・能力を育む『主体的・対話的で深い学び』」¹があげられ、①知能及び技能、②思考力、判断力、表現力等、③学びに向かう力、人間性等の三つの柱に重点を置いていることは明らかだ。

ピアノ実技の教職の授業を受け持つ中で、教職課程に学ぶ学生の音楽的な能力と技術力がどのようなバランスで身に付き、教員になったときにいかに工夫しながら伝え、児童・生徒の音楽的な力を引き出していけるのか検証することで、今後の授業の改善と工夫に繋げていきたいと思う。そのためには、音楽的技術力の向上を図ることと、音楽表現に根ざした言語活動が適切に行えることが重要であると考え、実証実験を通して方法の開発を行った。その基盤をなす音楽的技術力及び言語活動、この2点について次に述べる。音楽と言葉を一体化させる試みとして、自身の言葉で音楽を語れる第一歩を歩むことが本研究のねらいとするところである。

1-1 音楽的技術力について

中央教育審議会答申「新しい時代の義務教育を創造する」第2章「教師に対する揺るぎない信頼を確立する—教師の質の向上—」に優れた教師の条件として、次の3つの要素が重要であると挙げられる（文部科学省2017a）。

1. 教職に対する強い情熱
2. 教育の専門家としての確かな力量
3. 総合的な人間力

さらに、音楽の授業では、専門知識、歌唱力、楽器演奏力、聴く力、創作や編曲の能力など音楽的技術力が求められる。そして持てる能力を駆使して、児童・生徒の音楽のよさや素晴らしさを伝え、共に感動し、また、演奏する楽しさや喜びを味わわせるのである。

音楽の授業では、とくにピアノを用いる場面が多い。歌唱やリコーダーなどの楽器演奏では、練習する際に旋律をなぞって一緒に弾く、他声部と一緒に弾く、簡単な和音を付けて伴奏する、オリジナルの伴奏をするなどが挙げられる。しかも、その際の演奏は、範唱しながら、児童・生徒の様子を感じながら、演奏を聴き注意をあたえながら、テンポなど様々な観点から児童・生徒の総合的指導を必要とする。その指導の際に必要な有効な音楽的技術力つまりまぎれもなく「ピアノを弾く総合力」そのものである。この「ピアノを弾く総合力」が不十分であれば、指導が加わったとしても児童・生徒の信頼度は低下し、音楽の授業は成立し難くなる。

鑑賞では、構成や形式などの説明、フレーズやテーマなどを示す際に、小節数で表すだけでなく、ピアノを用いることができれば具体的にものなる。ピアノを有効に用いることができれば音楽科授業においてかなりの助けになるのである。

1-2 言語活動について

先行研究では、田畑八郎(2011:233)が「内包的意味」を説明できれば音楽表現が高まると主張している。音楽表現を高めることについては、個人の感性的なものに依存する割合が高く、技術的に言葉に置き換えられない面も少なくない。演奏するためには、例えば、強弱記号 p (ピアノ) は「弱く」であるが、「やわらかく」なのか「緊張感がある」のか「悲しげ」なのか「ワクワクするきもちを抑えている」のか様々な解釈をもって表現を決定する。そして決定された事柄を演奏に反映させるべく練習する。練習を進めるうちに、その解釈はさらに深まり、運動的スキルも向上し、さらに演奏に反映され仕上がっていくのである。

自身の音楽体験である習得(練習)過程は、音楽の授業において児童・生徒と共有したい「よさ」なども含めた指導内容に通ずるものである。未成熟な言語表現しか持ちえない児童・生徒を対象とする教育現場では、演奏表現を言葉に置き換えることが不可欠と考えられる。音楽用語やその曲の背景・歴史などだけでなく、感受させたい事項などに対し、どのような言葉で促し、気づかせることができるのか。曲想をイメージさせるために、表現の工夫を促すために、または特徴や「よさ」を共有するために音楽を言葉で表現する必要がある。楽曲の解釈を決定する際に適切な言語活動を行うことは、生きた授業づくりの実現に向けた取り組みの一つとして有効であるといえよう。

2 研究の目的・方法

本研究では、音楽の諸要素をいかに知覚・感受し表現の工夫・解釈を形成し自身の演奏にどのように反映させるか、言語活動の実態も併せてその習得(練習)過程について以下2点を検証した。

- (1) 弾き歌いに関して、その練習過程で言語活動を経て演奏に変化がみられるか。
- (2) 対象者が楽譜から何を読み取り、言葉(文)にするのか言語活動をみること、さらにその解釈の結果を演奏にどのように反映させたかを明らかにしたい。

2-1 対象者・対象曲

対象者は、教職課程に学ぶ学生、6名。音楽学部、声楽科・ピアノ科以外の専攻3、4年生、専攻とピアノの経験値は様々。ソナチネ程度の曲を一週間で譜読みできる。

対象曲「浜辺の歌」は中学校音楽の共通教材であり、対象者は2年次には伴奏の課題曲として、3年次では弾き歌いの課題曲として練習している。

2-2 調査の概要

調査日時 平成29年6～7月

アンケート調査は3回(6/21、7/5、7/19)、自由記述の言語活動および気づきのための講義は2回(6/28、7/12)行った。練習は、各自でももらい、その方法も指示しない。

(1) ふり返りのアンケート調査

音楽的技術力より「弾き歌い」が学生にとってどの程度できるか否かについて評価を行った。対象者に対して弾き歌いの演奏をした後に振り返りのアンケート調査(表1、2)を行った。全く同一の楽曲の演奏後に対応状況を評価する振り返りのアンケート調査を3回(6/21、7/5、7/19)繰り返し、変化を記録する方法で行った。3回の振り返りのアンケート調査の間に、言語活動として音楽の要素等の自由記述を2回(6/28、7/12)、さらに気づきのための講義を行った。

弾き歌いの演奏の対応状況は、中学校学習指導要領(文部科学省2008:74-79)に、「表現」及び「鑑賞」の指導を通して、次の事項を指導するとあるため(共通事項)音色、リズム、速度、旋律、テクスチュア、強弱、形式、構成などの音楽を形づくっている要素の項目について評価する項目について考えることとした。また、これらの事項の他、歌詞・曲想・伴奏・総合についての項目を設け同じように対応できているかを自己評価している。

また、これらの項目の対応状況について、該当する内容を1つだけ選び記入するものとした。

表1 音楽を形づくっている要素の項目別評価

1. 音(声)	かなりふさわしい ある程度ふさわしい ややふさわしい ほとんどふさわしくない わからない	2. リズム	かなり対応できている ある程度対応できている 多少対応できている ほとんど対応できていない わからない
3. 速度	かなり対応できている ある程度対応できている 多少対応できている ほとんど対応できていない わからない	4. 旋律	かなり対応できている ある程度対応できている 多少対応できている ほとんど対応できていない わからない

5. テクスチャ	かなりふさわしい ある程度ふさわしい ややふさわしい ほとんどふさわしくない わからない	6. 強弱	かなり理解できている ある程度理解できている 多少理解できている ほとんど理解できていない わからない
7. 形式	かなり対応できている ある程度対応できている 多少対応できている ほとんど対応できていない わからない	8. 構成	かなり理解できている ある程度理解できている 多少理解できている ほとんど理解できていない わからない

表2 演奏に関する事項の項目別評価

1. 歌詞	かなり対応できている ある程度対応できている 多少対応できている ほとんど対応できていない わからない	2. 曲想	かなり対応できている ある程度対応できている 多少対応できている ほとんど対応できていない わからない
3. 伴奏	かなりふさわしい ある程度ふさわしい ややふさわしい ほとんどふさわしくない わからない	4. 総合評価	かなり対応できている ある程度対応できている 多少対応できている ほとんど対応できていない わからない

(2) 言語活動

上記、音楽を形づくっている要素と演奏に関する事項について、楽譜から何を知覚したのか自由に記述（言語活動1）し、さらに、それらの事柄から「浜辺の歌」のよさや特質、雰囲気、表現しようとすることを言葉で表し、どの様に演奏に反映させるか記述（言語活動2）を行った。

演奏後のふり返りのアンケートを3回行う間に、この自由記述を言語活動として行った。

(3) 気づきのための講義

対象者にとって「浜辺の歌」の読譜や用語・記号など音楽の基礎知識の知覚は難しくないはずである。そこで、音楽を形づくっている要素等について解説するのではなく、気づきのための講義を行った。音楽を形づくっている要素や要素同士の関連、その他の項目について、対象者ができるだけ具体的に記述できることが当初のねらいであったが、残念ながら、対象者の言語活動は極めて乏しかったため急遽講義により「気づき」を促した。その気づきの言葉（言語活動）は3-2、3-3の自由記述に表す。

四

3 繰り返りのアンケート調査結果と考察

3-1 繰り返りのアンケート調査

表1、2の音楽を形づくっている要素等の対応状況をポイントにし、項目ごとに集計した。平均を図1に表す。

かなりふさわしい・かなり対応できている	4ポイント
ある程度ふさわしい・ある程度対応できている	3ポイント
ややふさわしい・多少対応できている	2ポイント
ほとんどふさわしくない・ほとんど対応できていない	1ポイント
わからない	0ポイント

図1では、対象者6名の演奏についての対応状況を、2回の言語活動を伴った練習過程を経て評価にどのような変化があるのかを表した。

1回目(6/21)より2回目(7/5)、3回目(7/19)とポイントが上がった。どの観点から考えれば良いのかわからないままにピアノの練習をし、練習しているがなかなか完成度が上がらないといった状況を認識したことで、評価に変化をもたらしたといえよう。言語活動を経て、目指すイメージや練習すべき部分が明らかになると、できていること・できていないことも明らかになった。さらにその部分を改善することで評価につながった。できているかどうかも分かっていなかった場合も明らかになったことで自信を持って評価できた。

表3では、音楽を形づくっている要素等の項目ごとに合計ポイントを集計した。

1回目(6/21)、2回目(7/5)では、項目によって対応状況にバラつきがあるが、3回目(7/19)ではバラつきが少なくなり、まんべんなく評価ポイントを取った。2回の言語活動において、対象学生の特徴として、感ずることができるのにそれを言葉に表せない場面が多くあった。一度ポイントが下がってから上がった項目「音・リズム・形式・構成」では、意識して考えていなかったため対応できているのか分かっていなかったことが、気づきのための講義で明らかになった。言語活動を経て目標とするイメージを持つと、それに対して実際の演奏の対応状況が低評価となったが、さらに練習をし、改善されたため評価が上がった。

図1 繰り返りのアンケート調査の総合評価ポイント

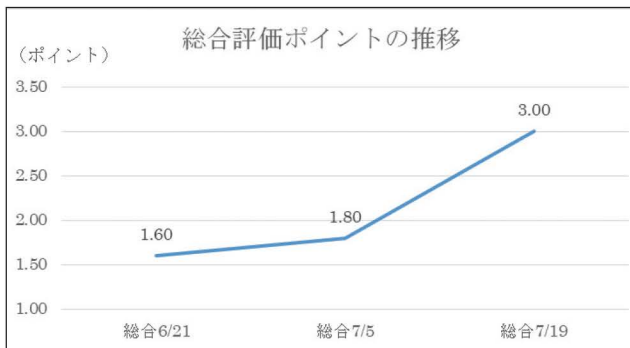


表3 音楽を形づくっている要素等の項目別合計ポイント

	6/21	7/5	7/19
音(声)	14	12	19
リズム	15	11	20
速度	16	18	17
旋律	15	16	20
テクスチャ	11	16	16
強弱	8	18	18
形式	14	11	19
構成	17	12	18
歌詞	14	16	17
曲想	10	15	20
伴奏	10	14	15
総合評価	10	11	18

3-2 言語活動1—音楽を形づくっている要素等の自由記述

音楽を形づくっている要素等について、対象者6名が知覚した事柄を自由に記述した言葉・文章を、そのままにまとめた。2回目(7/5)ふり返りのアンケートの後に行った言語活動である。

表4 音楽を形づくっている要素等についての自由記述

1. 音(声)	<ul style="list-style-type: none"> ・優美に ・優しい ・語りかけるような声で、波のような
2. リズム	<ul style="list-style-type: none"> ・6/8拍子 ・変化がない ・伴奏は波のようなリズムになっている ・波打つように八分の六拍子を用いている ・波うっているようなリズム ・この♪ ♪月♪月 ♪♪♪リズムがたくさん出てくる ・八分音符、十六分音符の多用、大きな2拍子
3. 速度	<ul style="list-style-type: none"> ・♩ = 104 ~ 112 ・最後の曲の終わりで rit. をかけ、終わりをイメージさせている ・104 ~ 112 と書かれているが「優美に」という表記もあるので適度な速さが望ましい ・歌いやすいゆっくりしたテンポ ・♩ = 108 くらい ・♩ = 104 ~ 112 となり、8分で感じるため比較的速く感じてしまうがおそらく3/8を1つという感じで大きく感じるべきである ・rit.
4. 旋律	<ul style="list-style-type: none"> ・2小節ずつのフレーズ ・<input checked="" type="checkbox"/>順次進行と<input checked="" type="checkbox"/>跳躍 ・単旋律 ・7・5調のまとまり、基本四分音符と八分音符で歌われる ・まとまりが感じられる ・盛りあがりの部分で音が上がっていく ・アウフタクト始まりの2フレーズで1つのまとまり、レガート感 ・音が上がったたり下がったりのくり返しになっている ・大きく分けて上行下行を繰り返すことで波を表現している
5. テクスチャ	<ul style="list-style-type: none"> ・七五調になっている ・単旋律の旋律とユニゾンで歌われる ・歌と伴奏の関係、波のような、優美に

6. 強弱	<ul style="list-style-type: none"> • 波のようにフレーズに < > がある • 盛りあがる部分は f になる • p.mp.mff、 < > • ㊦にあたる部分に盛り上がりがあるよう音符とともに上行する • < > が多く用いられている • p が一番多く登場する、反対に f や mf はそれぞれ一度のみである • < > くり返し 				
7. 形式	<ul style="list-style-type: none"> • 二部形式 • 三部形式 • ㊦ aa' ㊦ Ba' • A → B → A' 				
8. 構成	<ul style="list-style-type: none"> • 4小節 • A—B—A' <table border="1" data-bbox="377 676 1234 761"> <tr> <td data-bbox="377 676 802 714">• ㊦ a mp < > < ></td> <td data-bbox="802 676 1234 714">㊦ a' p < > < ></td> </tr> <tr> <td data-bbox="377 714 802 761">• ㊦ b mf < > f < ></td> <td data-bbox="802 714 1234 761">㊦ a' p < > < ></td> </tr> </table>	• ㊦ a mp < > < >	㊦ a' p < > < >	• ㊦ b mf < > f < >	㊦ a' p < > < >
• ㊦ a mp < > < >	㊦ a' p < > < >				
• ㊦ b mf < > f < >	㊦ a' p < > < >				
その他の事項歌詞	<ul style="list-style-type: none"> • 文語で書かれている • 叙情詩 • 七五調のまとまり • 難しい言葉を使っている • 鼻濁音・高音域 (D より上) が出てこない • 「ん」「は」が歌いにくい 				

3-3 言語活動2—表現の工夫

音楽を形づくっている要素等について記述した事柄（表4）を、演奏表現に反映させるための工夫について2回目（7/5）のふり返りのアンケート後に自由記述を行った。言葉・文章は、対象者の記述をそのままにまとめたものである。

表5 表現の工夫についての自由記述

歌詞	<ul style="list-style-type: none"> • 歌詞のくぎりや意味をはじめに理解させる • 病気の恋人を思っている • 朝の気持ち良い感じ、昔を思い出す • 発音 a,e,u (o) の口の形・爽やかな朝 • 言葉をかみくだく • 歌詞の意味を理解させる • 画像・写真を見せる • 静かな気持ちで、朝、歩いている様子 • くもは上にいくから音もあがる • 視点の変化→スケールの大きさ
----	--

音・歌詞に関連付けて	<ul style="list-style-type: none"> • なめらかに美しく • 穏やかに気持ちの良い感じ • 優しくおだやかに • 静かに気持ちのよい感じ
強弱・歌詞に関連付けて	<ul style="list-style-type: none"> • 風→雲→波→貝 視線が移動するのに従って強弱や表現のスケールも推移する • ㊦の部分 fの時に感情をこめる • よする波も～ スケールが小さくなる • ㊦ mp 朝の浜辺のようにリラックスして広くとる p 昔を思いかえしているので切ないような p ㊦ mf 鮮やかな色彩をイメージして p また懐古の念に戻っていく
音（声）	<ul style="list-style-type: none"> • なめらかに美しく • 四小節フレーズの終わりを優しく丁寧に • いくつしむように歌う
テクスチャ・音（声）に関連付けて	<ul style="list-style-type: none"> • 伴奏（波の様子）、揺れ動く心情
リズム	<ul style="list-style-type: none"> • ふりこの様子
リズム・歌詞に関連付けて	<ul style="list-style-type: none"> • 優しくおだやかに
速度・テクスチャに関連付けて	<ul style="list-style-type: none"> • 心情 揺れうごく
強弱	<ul style="list-style-type: none"> • pを遠くに感じる • 強弱は自分と波との距離で感じてほしい • pはささやくように、mpはお話している時（語りかけるように）みたいに歌う
強弱・構成に関連付けて	<ul style="list-style-type: none"> • ㊦ a 気持ちの良い感じ、自然な音量、自然な流れ、おだやかな感じ • ㊦ a' 内面、昔を思う気持ち • ㊦ b 明るい様子、気持ち良い、はればれしている • ㊦ a' 思いにふけている • pの時は小さなさざなみのように歌う • 歌詞に「むかしのことを～」とあるように懐かしむ感じ • 2回目のpもおちついてやさしくうたう。 • fは堂々と海の大きさを表すように • ㊦ a 気持ちの良い感じ、自然な音量、自然な流れ、おだやかな感じ • ㊦ a' 内面、昔を思う気持ち • ㊦ b 明るい様子、気持ち良い、はればれしている • ㊦ a' 思いにふけている • pの時は小さなさざなみのように歌う • 歌詞に「むかしのことを～」とあるように懐かしむ感じ

強弱・構成に関連付けて	<ul style="list-style-type: none"> • 2回目のpもおちついてやさしくうたう。 • fは堂々と海の大きさを表すように
構成	<ul style="list-style-type: none"> • aの終わりはVなので次のa'に向けて方向性は失わないように • a'のフレーズの終わりはIなので国のためにフレーズを閉じる
形式	<ul style="list-style-type: none"> • 日本歌謡曲、最近の曲を使って説明する。「見上げてごらん夜の星を」
速度	<ul style="list-style-type: none"> • ふりこ • 6/8の曲を提示する • 波がおしよせる浜辺をイメージさせるために、適度な速さ → どのくらいの波の大きさなのか考えさせてみる。

3-4 考察

ピアノ演奏の習得（練習）過程において適正な言語活動を伴うことは有効な手段であり、言語活動を経ることで、練習がより具体化し、効率よく演奏に反映されたと考えられる。（図1）

ふり返りのアンケート調査で評価が上がった項目、「音(声)」「曲想」に注目する。「音(声)」については、「歌詞」に関連付けて、気づきのための講義を行った。口の形状 [a][i][u][e][o] や発声について、言葉で説明した（言語活動を行った）うえで表現の工夫を促した。歌唱では、口の形状・発音・発声によって、響きや音量・音程にも影響を与え、表現にも変化がみられるものである。単音の練習から繋がり（言葉・文章）へと練習が進む。すると、「形式・構成・強弱」と関連付けて、音楽の諸要素等を自由記述したシートを手掛かりに表現を工夫し、それに向かって練習・試行錯誤しはじめる様子が見え始めた。演奏に反映されていると自覚できたのではないかと解釈が深まり、練習が具体化されたといえよう。

「速度」について評価が上がった（表3）のは、言葉と口の動き、発声を意識して練習したことで、歌唱とピアノを弾くという運動が連動されたためではないかと思われる。母音を意識したことで言葉・文章・「歌詞」・「テクスチュア」に関連付けた「伴奏」・「強弱」・「構成」及びこの曲のよさへと解釈を深めるきっかけになったのではないかと。対象者6名の間で共有した言語活動と演奏は、各自が新たな側面から知覚・感受することになり、さらに演奏解釈と演奏に反映されたと考えられる。

言語活動をみるための自由記述のシートには、はじめは空欄が目立ち、なかなか記述が進まなかった。何を記述すればよいのか理解できずに記述が進まないのか、知覚できないのか、言語活動に不慣れなのかと考え、気づきのための講義を行った。その後、記述した事柄を発表し意見交換を行うと、さらに記述が進んだ。（表4、5）

記述が多くみられた「強弱」と「強弱」に関連付けた事柄を示す（表5）。歌詞に「風一雲一波一貝」とあることから、視点の移動に着目し、「歌詞」と「強弱」を関連付けて解釈を形成しようとしたもので、対象者同士でも意見交換が盛り上がった。演奏表現に対して、大変に意欲があると感じた。すると、記述が進まなかったのは、言語活動に不慣れなことによるのではないかと考えられる。言語活動の現状においては、言語活動に対して関心が低いということ、そして、すぐにはできないことであり、トレーニングが必要ということがいえる。

4 結論

4-1 音楽的技術力と言語活動

3回のふり返りのアンケート調査から、弾き歌いの総合評価は、ほぼ全員上がったとみなすことができる。このことから、習得（練習）過程において、言語活動は一定の技術力に効果をもたらせることがある程度推察できる。

4-2 言語活動の充実のための気づきの講義

言語活動をみるための記述が初期には極めて少なかったため、結果、「気づき」のための講義を急遽挿入し、最後に自由記述を行った。これにより、ある程度記述がなされ、言語活動も細々ではあるがわずかに向上したとみることができる。

4-3 曲の解釈の深化と歌唱・ピアノ演奏の連動性

各々の評価項目はバラバラであるが、「音（声）」「曲想」に着目した結果、次のことが分かった。

- ①楽曲に対する解釈が深まり、練習（習得）過程が、例えば口の形状を示したために、学生自身、より具体化されたようである。
- ②歌うこととピアノを弾くという運動が連動された効果が顕在化した。

4-4 まとめと今後の課題

音楽教育の現場で必要とされる、また、通用する実践力を自ら学び続けていくことができるよう、ピアノ演奏の習得（練習）過程の評価方法を考案し、音楽的技術力の向上と言語活動の充実に拘わる効果の検証を行った。

弾き歌いの場合、どうにか伴奏し歌唱できてくると、弾くことと歌うことを運動的に練習するなど何となく曲全体の通し練習ばかりになりやすい。何ができて何ができていないかを明らかにするために、本研究では、学習指導要領に沿った事項に関して研究対象とした。そしてそれらの事項は、教育課程に学ぶ学生にとって、児童・生徒に学ばせたい内容をまず自身で学び、楽曲について深く研究するうえでのチェック項目にもなり得ると考える。音楽教育の現場で、ピアノ演奏の心配をすることなく、魅力的な授業・生きた音楽がなされることを期待したい。

ピアノ演奏の習得（練習）過程においての適正な言語活動が演奏に活かされることが多少なりとも明らかになり、そのためには、言語活動の向上を目指すべきであるという課題も明らかになった。しかも、これら言語活動は、音楽教育の現場で用いられることを想定して行われるべきである。音楽と言葉を連動させ演奏表現を促す言語活動自体を、音楽的技術力といってもよいかもしれない。

本研究では技術論として成果をおさめたが、調査対象に適切な楽曲の選択・時期（入学直後か、教育実習前かなど）・評価方法・自由記述のシート・回数などの検証について着手できえなかった。これらの事項を今後の課題とし、さらに、弾き歌いだけでなく模擬授業を対象とした研究も進めていきたい。

注

- 1 文部科学省 2017年3月告示『学習指導要領のポイント等』において、知・徳・体にわたる『生きる力』を子供たちに育むため、『何を学ぶのか』という学習の意義を共有しながら、授業の創意工夫や教科書等の教材の改善を引き出していけるよう、全ての教科等を、①知能及び技能、②思考力、判断力、表現力等、③学びに向かう力、人間性等の三つの柱で整理されている。

参考文献

- 大浦容子 2007「演奏に含まれる認知過程—ピアノの場合—」波多野諠余夫編『音楽と認知』東京大学出版会 69-96
- 佐伯胖 1975『学びの構造』東洋館出版
- 高橋雅子 2010「音楽科教育における言語活動に関する研究—コミュニケーションや感性・情緒の基盤の観点から—」山口大学教育学部附属教育実践総合センター『研究紀要』第30号 21-31
- 田畑八郎 2011「音楽科教育における「思考力」と「説明力」の育成試論—「指示的意味」と「内包的意味」を識別して言語化する試み」『名古屋芸術大学紀要』32巻 229-239
- 野村幸治、中山裕一郎編 2000『音楽教育を読む』音楽之友社
- 文部科学省 2017a『幼稚園教育要領、小・中学校学習指導要領改訂のポイント』平成29年6月インターネット
http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-os/_icsFiles/afieldfile/2017/06.16/1384662_2.pdf (2017. 8. 16にアクセス)
- 文部科学省 2017b『中学校学習指導要領』第5節 音楽 平成29年3月インターネット
http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afieldfile/2017/06/21/1384661_5.pdf (2017. 8. 16にアクセス)